

存在感なく注目もされない

# 関東でも関西でもない。それが愛三岐

日本の産業を支える愛知・三重・岐阜の三県。経済圏として、生活圏として三県は一体化している一方で、一枚岩になって何かを発信するということが大の苦手らしい。なぜ三県の枠組みができあがったのか。

ライター

## 川合登志和

●かわい・としかず 1975年名古屋生まれ。名古屋の個性がなぜ魅力に繋がらないのかを追究し続け、ラジオ番組の構成、パーソナリティも務める。ウェブサイト「トッピーネット」運営。共著書に『名古屋あるある』(TOブックス)。

### 東海三県は一つの共同体なのに…

昨年、愛知県からは国産初の次世代リージョナルジェット機「MRJ」の飛行試験機がアメリカへと飛び立ち、三重県では伊勢志摩サミットが開催され、岐阜県はアニメ映画『君の名は。』の舞台として大いに盛りあがりました。外から見るとそれ

ぞれ別の場所で起きた事柄のように見えますが、地元では、すべてが一つの地域の中で起きたことのように感じています。名古屋を中心とした愛知、三重、岐阜の東海三県は、想像以上に一体化しているのです。しかし、一体化している地域にもかかわらず、この三県を指す固有名詞が存在しません。そしてなぜ三県なのか、そこには名古屋の求心力のなさ

が如実に表れています。

愛知・三重・岐阜の東海三県は、どれほどまでに一体化しているでしょうか。まずは食文化。愛知県岡崎市を発祥とする豆味噌、八丁味噌を使った料理を常に口にしているのは全国でもこの三県だけといえます。そして経済圏。三重県や岐阜県にも名古屋のベッドタウンといえる街が

たくさんあり、多くの人が名古屋へと通勤しています。国内有数の工業

か。

### 地元マスコミでさえ「この地方」

地帯・モノづくりの産業集積地として、三県が日本の屋台骨を支えています。さらにメディア。テレビやラジオもこの三県をカバーする広域放送がメインとなっていて、NHKもこの三県を多くの時間で一つのエリアとして扱っています。

日本の三大都市圏といえば、東京を中心とした「首都圏」、大阪を中心とした「関西圏」、そして名古屋を中心としたこの三県ということになるのですが、ここで多くの方は「中京圏」という言葉を思い浮かべると思います。しかしこの「中京圏」という単語、名古屋ではほぼ使われることが無いのです。

ところがこの「名古屋圏」「中京圏」といった場合、三県を指すには力不足となります。せいぜい岐阜県のみ濃地方と三重県の北中部地方までしか入らないイメージです。

しかし、この三県以外に住む多くの方が、この三県を一つのものとして認識できないことは無理ありません。なぜなら、実際には名古屋を中心として一つの共同体になっているにもかかわらず、発信力がない、一枚岩ではない、ひと塊であることが気に入らない人も多いなどといった理由から、その存在感を外部に示すことが一切ないからです。なぜ、そんな歪な状態になっってしまったのでしょうか

「中京」とは、名古屋市の異称であり名古屋とまったく同じ意味として地元では使われています。どういう時に使われるのかというと、たとえば、同種の名称ですでに名古屋が使われている場合…。「名古屋大学」「名古屋競馬場」「名古屋テレビ」がすでにあつたことから、後発のこ

地元ではもっぱら「東海三県」という単語が使われるわけですが、この「東海三県」を外に向けては使えないという事情があります。それは静岡県の存在です。

地元に向けてのローカル放送で、NHKは長年にわたって愛知・三重・岐阜の三県を指して「東海三県」「東海地方」といい、この三県向け放送を「NHK東海」と表記す

るが「中京大学」「中京競馬場」「中京テレビ」といった具合に名づけるというパターンがほとんどです。なので「中京圏」といえる必要がないのです。「名古屋圏」といえば済む話なのでから。

ところがこの「名古屋圏」「中京圏」といった場合、三県を指すには力不足となります。せいぜい岐阜県のみ濃地方と三重県の北中部地方までしか入らないイメージです。